

もくじ

- 3 特集
災害、その時あなたは—地域ぐるみで
自助・共助—
- 6 平成23年度財政状況
- 10 カメラさんぽ
- 11 尾道市職員採用候補者試験、公立大学
法人尾道市立大学職員採用候補者試験
- 12 くらしの窓
住民異動・戸籍に関する届出はお忘れなく／
煙で被害を受けている人の立場になっ
て考えましょう！／清掃 ほか
- 14 健康・福祉
国民健康保険加入者の皆さんへ／10月
から高齢者インフルエンザの予防接種
が始まります／尾道市立市民病院市民
公開講座／休日当番医 ほか
- 18 子育て
定期健診など／学校選択制度 ほか
- 21 スポーツ
- 22 芸術・文化
本因坊秀策没後150年記念イベント／尾
道小径散策「秋の茶会」12／みつぎ映画
まつり／平成24年度尾道市立大学 尾
道学講座「尾道学の可能性」ほか
- 25 情報アラカルト
全面通行止のお知らせ／交通規制のお
知らせ／第52回尾道市交通安全大会／
第1回全国仮装大会inおのみち2012参加
者募集／第9回尾道灯りまつり ほか
- 31 相談
- 32 協働通信シリーズ⑩やさしさがつながるまちづくり
お蔵出し映画祭2012

今月の表紙



「秋に防災訓練するからね。」通りかかった地域の人に声をかけると、たちまち会話の和ができました。百島町では、防災で大切な「日頃からの声かけ」が自然に行われています。(関連記事が3～5頁にあります。)

ロンドンオリンピック

やすかず 本市出身 村上恭和監督率いる 日本卓球女子団体が銀メダル

村上さんは本市向東町の出身で、卓球競技の選手、指導者として活躍。今回のオリンピックでは卓球女子監督として、見事銀メダル獲得へと導きました。オリンピックでの卓球競技メダル獲得は史上初の快挙で、監督の手腕も高く評価されています。

銀メダル獲得の偉業おめでとうございます！



村上恭和さん(左から2人目)と選手の皆さん
【写真:村上恭和さん提供】

【村上さんから本紙に寄せられたメッセージ】

私は色紙に書く言葉はいつも決めています。
「人間万事塞翁が馬」です。

意味は人生における幸不幸は予測しようがない。幸せが不幸に、不幸が幸せにいつ転じるかはわからないのだから今を全力で生きようという意味であると私は解釈しています。

私は卓球の指導者として勝利以上の数えきれない敗北を経験し、また、親友の急死、オリンピック直前の父親の死と家族の病気など多くの苦難を体験してきました。しかし、どんな時でも次に来るだろう幸せに向かってこの「人間万事塞翁が馬」を心に刻み頑張ることができたと思います。

このロンドンオリンピックで銀メダルを獲るまでに幾多の大きな壁がありました。希望を見失わず、選手とスタッフ、関係者全員が努力した結果が日本卓球界史上初となる銀メダル獲得につながったのです。

応援していただいた郷里の方々や、日本全国の卓球ファンに感謝申し上げます。

ロンドンオリンピック卓球競技女子監督 村上恭和

トピックス—Topics—

全国大会出場(市長表敬訪問／敬称略)



第39回全日本中学校
陸上競技選手権大会
(8/19～22=千葉県)
小川 瑠(長江中学校)



第43回全国中学校
柔道大会
(8/21～24=神奈川県)
本山憂乃(高西中学校)

特集 防災

災害、その時あなたは — 地域ぐるみで自助・共助 —

いつどこで起きるか分からない自然災害。発生時の被害を最小限に抑えるためには、自らの身を守る「自助」、地域で助け合う「共助」、市など行政機関が行う「公助」が連携し、防災対策に取り組むことが大切です。今回は、「自助」「共助」をテーマにした防災特集です。いざというときに備えて、今できることを考えてみませんか。



【写真上・下】市内で起きた土砂崩れ・河川増水の様子
【写真中左】昨年実施された防災訓練
【写真中右】地域での声かけ

(社)日本火災学会の調査によると、阪神・淡路大震災では、倒壊した建物から救出された人のうち、9割を超える人が自力または家族、近隣住民により救出されたと言われています。

災害から身を守るためには、「自助」「共助」による対応が大切です。

☎総務課生活安全係(☎0848-25-7216)



自助

防災意識を高め、災害に備える

近所への声かけ

近所の人とのコミュニケーションはとれていますか。普段から近所への声かけをして信頼関係をつくっておくことで、災害時の避難支援も進めやすくなります。



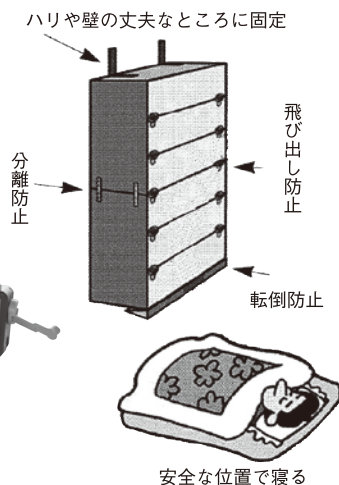
災害情報を知る

地震や洪水などが発生した場合の被害の程度・範囲、避難所を記載した「防災マップ(※今年度改訂予定)」や、防災情報を事前に登録していただいた携帯電話等へ配信する「尾道市防災情報メール」などもご活用ください。市ホームページにもさまざまな情報を掲載しています。



家庭での備え

防災グッズや家庭での備えなど、身の安全を確保するための対策を見直してみませんか。



●防災グッズ

身の安全を確保するために

スリッパ、懐中電灯、救急医療品など
正しい情報を得たり家族と連絡をとるために

小型ラジオ、筆記用具、携帯電話など

被災後の3日間を食いつなぐために

水・非常食、乳幼児がいる場合は粉ミルクなど

避難生活でも困らないために

タオル、ティッシュ、衣類など

●その他の対策

住宅の耐震化を行う

住宅用火災警報器・家具転倒防止金具を設置する
ガラス飛散防止フィルムを貼る

風呂場の水をためておく

履物を寝室に備えておく

公助についても知っておこう

自助・共助について考える時、公助も含めたそれぞれの役割分担を理解しておくことも必要です。自助・共助・公助が連携し、社会全体で防災に取り組むことが災害の被害を防ぐことにつながります。

市など行政機関は、自助・共助の取り組みへの支援や、災害発生時に迅速・的確に対応できる防災・危機管理体制の充実に向けてさまざまな取り組みを進めています。



- 災害に対処するための計画づくり、防災知識の普及啓発や訓練の実施
- 災害に関する情報提供
- 災害時における救助活動、生活物資の備蓄調達、資機材の整備やライフラインの確保
- 住宅・各種施設の耐震化の促進
- 道路・海岸・河川・急傾斜地等の防災性の向上や防災施設の整備
- 被災者の生活再建、被災地域の復旧

共助

地域みんなで助け合う



【自主防災組織とは】

“自分たちの地域は自分たちで守る”地域住民が協力して自主的に防災活動を行う組織です。

大規模な災害時には、市など行政機関だけでは十分な対応ができないことがあります。こうした時、地域で組織的に対応することで「減災」することができます。



interview

心豊かに暮らせる島への思い

平成24年9月2日、新たに自主防災会を設立した百島町自主防災会会長にお話を伺いました。

百島町自主防災会
会長 林 凌司さん

65歳以上の高齢者が65%の百島町。南海地震が発生すれば、建物の倒壊や津波の到来も予測されています。

東日本大震災の後に、百島の一人暮らしの高齢者から「津波が来たらこの家と一緒に死ぬしかない。一人では逃げられないから…」という声を多く聞いた。こうした悲痛な声に「何とか助けてあげたい」と住民意識が高まり、自主防災組織設立の取り組みを進めることとなりました。

7月に開催した第1回の防災委員会では、各区ごとをお願いしていた委員の約9割の人が参加してくれたことに驚きました。町民が力を合わせた防災活動への意識が高いことをあらためて知ることができました。

9月2日に百島町自主防災会を設立しましたが、何より町民の意識を高めていくことが大事です。まずは、災害への備えや避難所が書かれた冊子を全世帯に配布しました。

11月に大規模な避難訓練を実施する予定です。ここでは、声かけによる安否の確認が第一。高齢者の多いこの島では、地域の一体感を持った組織としての活動が特に必要です。

「災害時一人も見逃さない」を合言葉に、町民全員が力を合わせた防災活動をめざしていきます。



「60代70代でも百島では若者。体が動くうちは取り組みに参加したい」と話す委員の皆さん

地域の防災力を高める取り組みを

本市は比較的自然災害の少ない地域と言われますが、急傾斜地が多く、梅雨や台風シーズンには風水害による土砂災害や高潮被害は決して少なくありません。さらに、南海トラフを震源とした巨大地震では、震度6強の大きな揺れと津波の到来も想定されています。

防災は、一人ひとりが防災意識を高め、正しい知識を身に付けることが大切です。生活物資の備蓄、住宅耐震化の推進、住宅用火災警報器・家具転倒防止金具の設置、避難場所や家族との連絡方法の確認など、日ごろからの心掛けと備えが災害から身を守る第一歩になります。

また、大規模災害時は個人や家族だけでは十分な対応ができなくなり、地域が一致団結して助け合うことが必要となります。特に一人暮らしの高齢者や障害者など災害時要援護者の支援は、地域の力がないと困難です。自主防災組織結成や防災訓練など、地域の防災力を高める取り組みをよろしくお願いします。



尾道市総務課長
戸成宏三